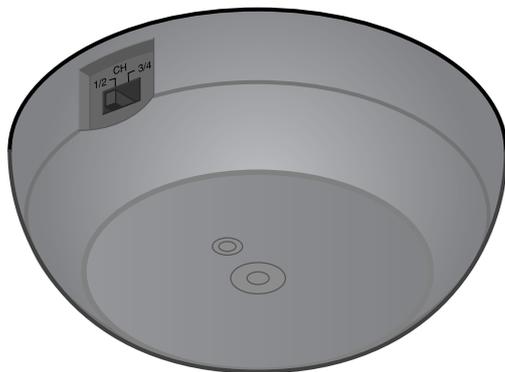


## 取扱説明書

工事説明付き

### 受光センサー

品番 WX-LS100



上手に使って上手に節電

#### 保証書別添付

このたびは、受光センサーをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(4~5ページ)は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

## 商品概要

本機はPLL赤外線ワイヤレスマイクロホン（WX-LT100、WX-LT300）（以下、マイクロホン）から送信される赤外線を受光するセンサーです。

赤外線ワイヤレス受信機（WX-LR100/A、WX-LR100/B）と組み合わせて使用します。

- ・電源は赤外線ワイヤレス受信機から供給されます。
- ・受信チャンネルは「1/2：1ch/2ch」と「3/4：3ch/4ch」で切替設定ができます。

## 付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）	…………… 1冊	以下の付属品は取付工事に使用します。	
保証書	…………… 1式	取付アングル	…………… 1個
		取付ねじ（M4×65）	…………… 1個
		取付ねじ（M4×35）	…………… 2個

## 免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の故意や誤使用、不注意による障害または本商品の損傷など
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害

## 記号のみかた



：該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

# もくじ

## はじめに

商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	2
記号のみかた	2
安全上のご注意	4
使用時における通話内容傍受に関するご注意	6
使用上のお願い	6
各部のなまえと働き（前面・後面）	7

## 設置・接続のしかた

設置上のお願い	8
設置のしかた	10
天井内部で配線する場合	10
天井板が取り外せない場合	11
天井内部で配線できない場合	12
受信範囲と増設	13
1ch/2ch（3ch/4ch）を受信する場合	13
接続のしかた	14
1台接続する場合	14
複数台接続する場合	15
同軸ケーブルについて	16
チャンネル設定について	17

## 必要なとき

故障かな!?	18
仕様	19
保証とアフターサービス	裏表紙

# 安全上のご注意

必ずお守りください

はじめに

お使いになる人やほかの人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



**警告**

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



**注意**

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

## 警告

### 工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店に依頼してください。

### 異物を入れない



禁止

水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因になります。

- ただちに赤外線ワイヤレス受信機の電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

### 分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因になります。

### 異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがするなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに赤外線ワイヤレス受信機の電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

### 雷のときは工事、配線をしない



禁止

火災や感電の原因になります。

### 取付ねじは、しっかりとしめる



落下などで、けがの原因になります。

- 取付工事は販売店に依頼してください。

## 警告

### 塩害や腐食性ガスの発生する場所に設置しない



取付部が劣化して、落下などの事故の原因になります。

### 定期的に点検をする



金具やねじが錆びると、落下などでけがの原因になります。

- 点検は、販売店や保守契約店に依頼してください。

### 質量に耐える取り付けをする



取り付けの場所や方法が不適切な場合、落下や転倒などでけがの原因になります。

- 販売店に依頼してください。

### 取り付けは、必ず赤外線ワイヤレス受信機の電源を切ってから行う



感電の原因になります。

## 注意

### 湿気やほこりの多い場所に設置しない



火災や感電の原因になります。

### ぶら下がらない



けがの原因になります。

# 使用時における通話内容傍受に関するご注意

本製品は赤外線を利用した無線システムのため、赤外線の届く範囲内での音声信号の授受が可能となります。赤外線の届く範囲内であれば、障害物（壁など）がある場合を除き、すべての場所に音声信号が届きます。そのため、傍受に関する対策を行っていない場合は、**悪意のある第三者によって、赤外線を故意に傍受し通話内容を聞かれる可能性があります。**

この問題に対応するため、お客様が行おうとする赤外線による送受信範囲の外側に、壁などの障害物を設けることで、問題が発生する可能性を軽減します。

当社では、傍受に対する対策を行わずに使用した場合に発生する問題を十分理解していただいたうえで、お客様の責任において傍受に対する対策を行うことをおすすめします。

傍受に対する対策を行わない、あるいは赤外線ワイヤレスの仕様上やむをえない事情などにより、傍受の問題が発生した場合、当社ではそれによって生じた損害に対する責任は負いかねます。

## 使用上のお願い

**⚠ 警告、⚠ 注意** に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

使用温度範囲は、 $-10\text{ }^{\circ}\text{C}\sim+50\text{ }^{\circ}\text{C}$ です。

### 受光センサーカバーについて

受光センサーカバーは赤外線透過型樹脂を使用し、赤外線ワイヤレスマイクロホンからの赤外線を受信するために重要な部品です。内装インテリアに合わせた塗装などはしないでください。

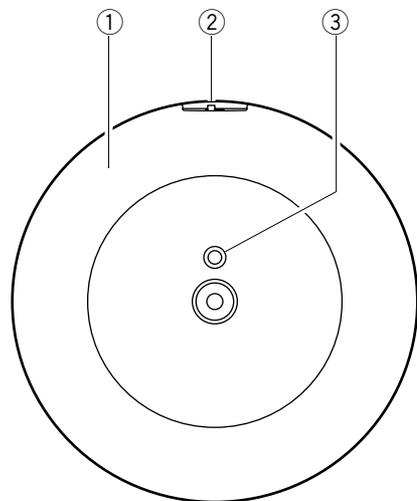
使用しない場合は**放置せず、必ず販売店に連絡し撤去してください。**

### お手入れのしかた

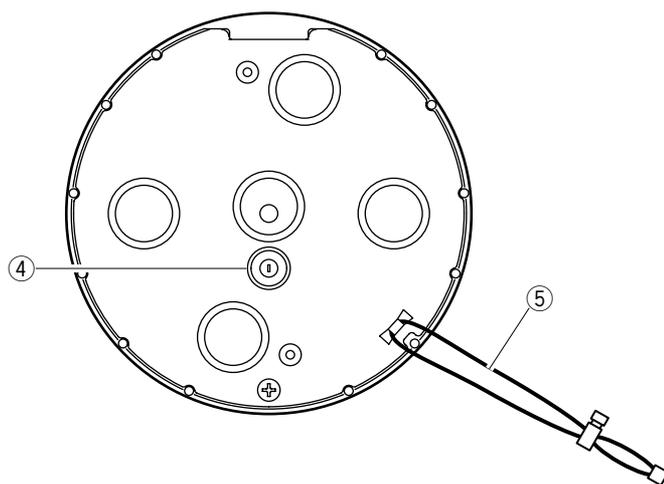
お手入れは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したりすることがありますので避けてください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

# 各部のなまえと働き (前面・後面)

前面



後面



① 受光センサーカバー

内部のセンサーで赤外線を受光します。

② チャンネル切替スイッチ [1/2、3/4]

受信するチャンネルにより、「1/2 : 1ch/2ch」、[3/4 : 3ch/4ch] と切り替えます。

③ 電源表示灯 (緑色、オレンジ色)

赤外線ワイレス受信機側より電源の供給がある場合、以下の色で点灯します。

- ・チャンネル切替スイッチ : [1/2] 設定時、緑色表示
- ・チャンネル切替スイッチ : [3/4] 設定時、※オレンジ色表示

※緑色と赤色の表示灯が同時に点灯している状態です。見る角度によっては、緑色、または赤色に見える場合があります。見る角度を変えて確認してください。

④ センサー出力端子

F型コネクタと同軸ケーブルにより、赤外線ワイヤレス受信機のセンサー入力端子へ接続します。本機の電源は、赤外線ワイヤレス受信機に接続した同軸ケーブルより供給されます。

⑤ 落下防止ストラップ

同軸ケーブルに取り付けて、受光センサーの落下を防止します。

# 設置上のお願い

設置工事は電気設備技術基準にしたがって実施してください。

## ⚠ 警告

**工事は必ず販売店に依頼してください。**

工事を行う前に、接続する機器の電源スイッチを「切」にしてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

受光センサーは、マイクロホンの到達距離以内、および移動する範囲で見える位置に設置してください。

同軸ケーブルと高周波コネクターの処理、および接続は正しく行ってください。

処理、および接続が不完全な場合は、受信感度が低下したり、外来ノイズの影響を受けやすくなります。

強い光や太陽光が受光センサーに直接当たる場所には設置しないでください。

特に窓際に設置すると、直接太陽光が当たらなくても太陽の影響を受けてしまい、受信感度が低下し到達距離が短くなる場合があります。窓際からできるだけ離し（5 m以上）設置してください。それでも改善されない場合は、窓際からさらに離して設置したり、カーテンやブラインドなどを使用すると改善される場合があります。

温風吹き出し口付近への設置は避けてください。また、湿気やほこりの多い場所や、振動の多い場所に設置すると故障の原因になることがあります。

ほこりの多い場所では、受光センサーカバーへのほこりの付着などにより赤外線受信の妨げとなり、マイクロホンの到達距離が減少しますので、ほこりの多い場所への設置は避けてください。

以下のような場所での設置、および使用はできません。

- 雨や水が直接かかる場所
- プールなど、薬剤を使用する場所（軒下なども含む）
- 厨房や機械工場などの蒸気や油分の多い場所、および可燃性雰囲気中などの特殊環境の場所
- 放射線やX線および強力な電波や磁気の発生する場所
- 海上や海岸通り、および温泉地などの腐食性ガスが発生する場所
- 車輻や船舶などの振動の多い場所（車載用機器ではありません）
- 天井裏での結露による水滴のかかる場所

プラズマディスプレイを使用の際は赤外線対応モデルをご使用下さい。

非赤外線対応モデルと共に使用するとノイズが発生します。やむを得ず非赤外線対応モデルをご使用される場合は以下のように設置し動作確認後、十分に注意しお使いください。

- 受光センサーの設置はプラズマディスプレイの横・後ろ方向の画面が見えない位置で極力距離（10 m以上）を離し設置してください。
- 受光センサーとマイクロホンの距離は極力短く（3 m以内）し、ご使用ください。
- 受光センサーとマイクロホンの間には遮蔽物（人体を含む）がない状態でご使用ください。

蛍光灯と受光センサーの距離は極力（1 m以上）離して設置してください。

AV機器やエアコンなどのリモコンを受光センサーに向けて操作すると雑音や音途切れが発生する恐れがあります。

強いノイズ発生源がある場合には、使用できないことがあります。使用できる距離まで離して設置してください。

天井の高さは2 m～4 mを基本としています。この範囲を超えると到達距離が短くなる場合があります。

壁・床・天井の色は白系統を基本としています。黒系統の場合、到達距離が短くなる場合があります。

壁による反射も利用しての到達距離です。壁が使用エリアより大きく離れる場合は到達距離が短くなる場合があります。

窓際や窓が多い部屋では音途切れが発生する場合があります。発生する場合は、白系統のカーテンやブラインドなどをお使いになると改善される場合があります。

壁際で壁側に向かって、マイクロホンを使用すると音声が届かない場合があります。

ボルトやねじの締め付けについて、以下の点に注意してください。

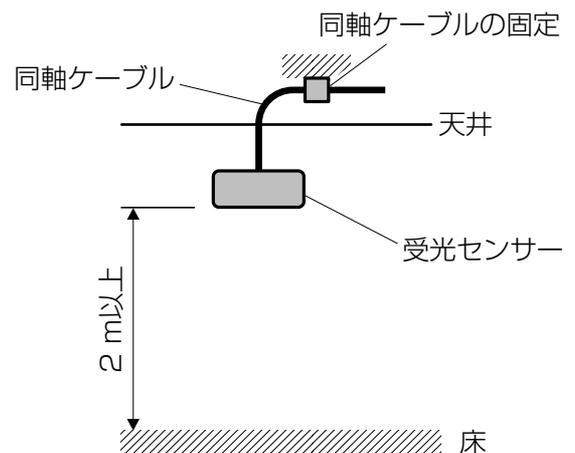
- ボルトやねじの締め付けは、トルク管理が必要です。
- トルク管理にはトルクレンチやトルクドライバーが必要になります。
- インパクトドライバーや電動ドライバーは、クラッチ付のものであってもトルク管理が困難なため、使用すると取り付け部の破損の原因になりますので、使用しないでください。

取り付け後は、目視にて、ガタツキがなく、しっかりと締め付けられていることを確認してください。

本受光センサーの取り付け作業においては、以下の事項に十分注意してください。

- 高所作業については、必ず有資格者が作業をしてください。
- 作業は、周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
- 作業が安全・確実に行えるよう、安全管理をご徹底ください。

- 重要**
- 万一、本機の取付ねじが外れた場合、本機が落下して人に当たらないようにするために、床から本機までの高さが2 m以上となるよう同軸ケーブルの長さを調整し、同軸ケーブルを固定してください。



# 設置のしかた



## 警告

取り付けは、必ず赤外線ワイヤレス受信機の電源を切ってから行う感電の原因になります。

## 天井内部で配線する場合

同軸ケーブルが天井内部より配線され、天井板が取り外せるような場合は、以下のように本機を取り付けます。

### 1 天井板に穴を開ける

天井板を取り出し板に約φ30 mmの穴を開け、同軸ケーブルを取り出します。

### 2 落下防止ストラップを取り付ける

落下防止ストラップを同軸ケーブルに通し、アジャスターで締め付けます。

### 3 同軸ケーブルのF型コネクタを本機に取り付ける

F型コネクタのねじ部を本機のセンサー出力端子に締め付けます。

### 4 本機を取り付ける

同軸ケーブル、ストラップを穴に押し込みます。

取付ねじ (M4×65 : 付属品) を受光センサーに通し、取付アングル (付属品) に締め付けます。

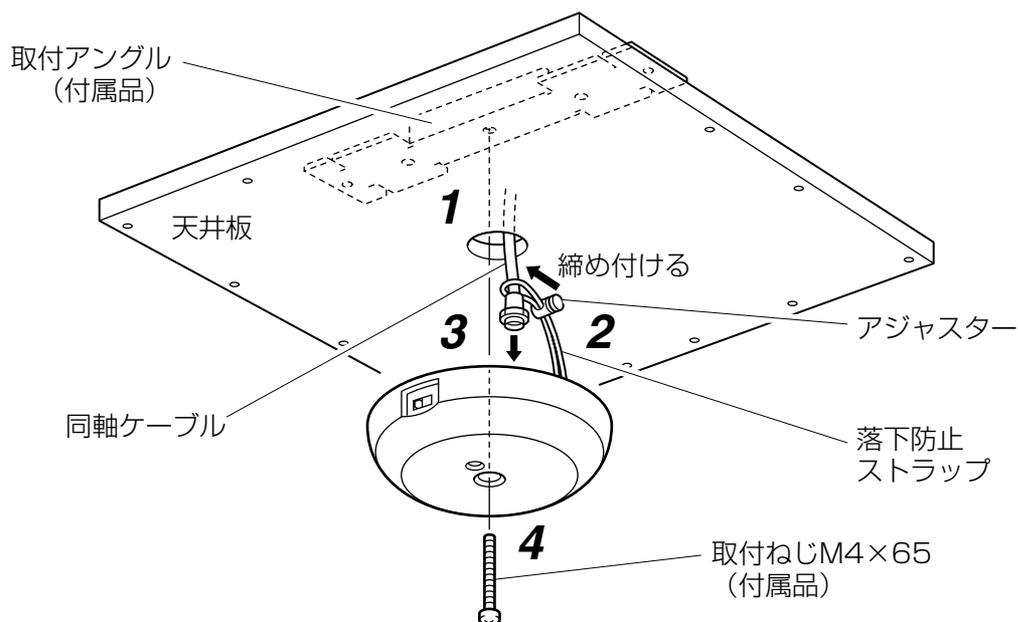
ねじ締めトルク 1.18 N・m±0.2 N・m {12 kgf・cm±2 kgf・cm}



- トルクドライバーなどを使用し、指定されたトルクで確実に締め付けてください。

### 5 取り付け後、緩みがないか確認する

目視にてガタツキがなく、しっかりと締められていることを確認します。



- 落下防止のため、必ず落下防止ストラップに同軸ケーブルを通し、アジャスターで締め付けてください。締め付けなかった場合、落下防止ストラップが同軸ケーブルから抜け、本機の落下につながります。



**警告**

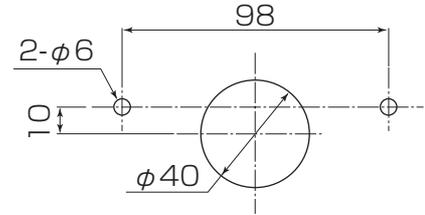
取り付けは、必ず赤外線ワイヤレス受信機の電源を切ってから行う  
感電の原因になります。

## 天井板が取り外せない場合

天井板が取り外せない場合は、以下のように本機を取り付けます。

### 1 天井板に穴を開ける

天井板に約φ40 mmの穴を1つと約φ6 mmの穴を2つ開けます。



### 2 取付アングル (付属品) を固定する

約φ40 mmの穴に取付アングルを通し、取付ねじ (M4x35 : 付属品) 2本で取付アングルを固定します。

ねじ締付目安トルク 0.78 N・m±0.1 N・m {8 kgf・cm±1 kgf・cm}

※締付トルクは天井材質に合わせて、ねじが突き抜けないよう調節してください。

### 3 落下防止ストラップを取り付ける

約φ40 mmの穴から同軸ケーブルを取り出し、落下防止ストラップに同軸ケーブルを通し、アジャスターで締め付けます。

### 4 同軸ケーブルのF型コネクタを本機に取り付ける

F型コネクタのねじ部を本機のセンサー出力端子に締め付けます。

### 5 本機を取り付ける

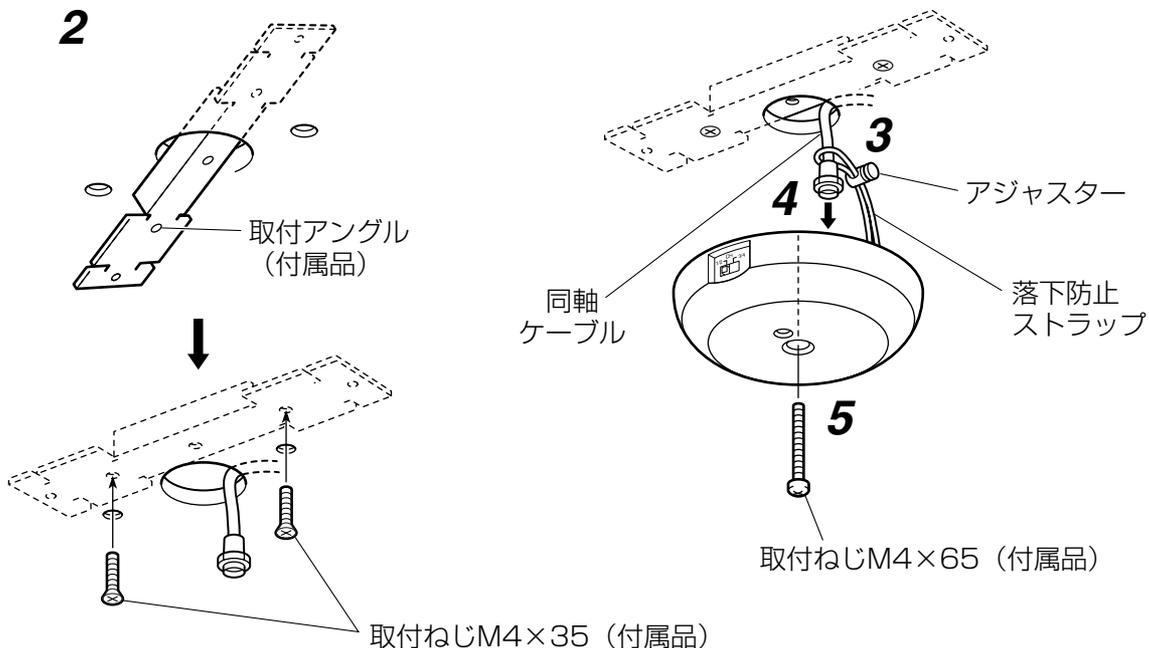
取付ねじ (M4x65 : 付属品) を受光センサーに通し、取付アングルに締め付けます。

ねじ締付トルク 1.18 N・m±0.2 N・m {12 kgf・cm±2 kgf・cm}

※ねじを締め付ける際は強く押し付けないでください。強く押し付けすぎると天井材質により、取付アングル固定ねじが抜ける恐れがあります。

### 6 取り付け後、緩みがないか確認する

目視にてガタツキがなく、しっかりと締められていることを確認します。



## 天井内部で配線できない場合

同軸ケーブルが天井内部で配線できない場合は、以下のように本機を取り付けます。

### 1 取付アングルを加工する

取付アングル（付属品）を、右図のように加工します。

### 2 取付アングルを天井に取り付ける

加工した取付アングルをねじ（現地調達）で天井に取り付けます。

### 3 落下防止ストラップを取り付ける

落下防止ストラップを同軸ケーブルに通し、アジャスターで締め付けます。

### 4 同軸ケーブルのF型コネクターを本機に取り付ける

F型コネクターのねじ部を本機のセンサー出力端子に締め付けます。

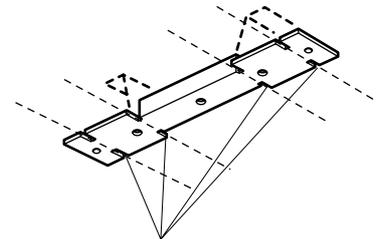
### 5 本機を取り付ける

取付ねじ（M4×65：付属品）を赤外線センサーに通し、取付アングルに締め付けます。

ねじ締めトルク  $1.18 \text{ N} \cdot \text{m} \pm 0.2 \text{ N} \cdot \text{m}$  {  $12 \text{ kgf} \cdot \text{cm} \pm 2 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$  }



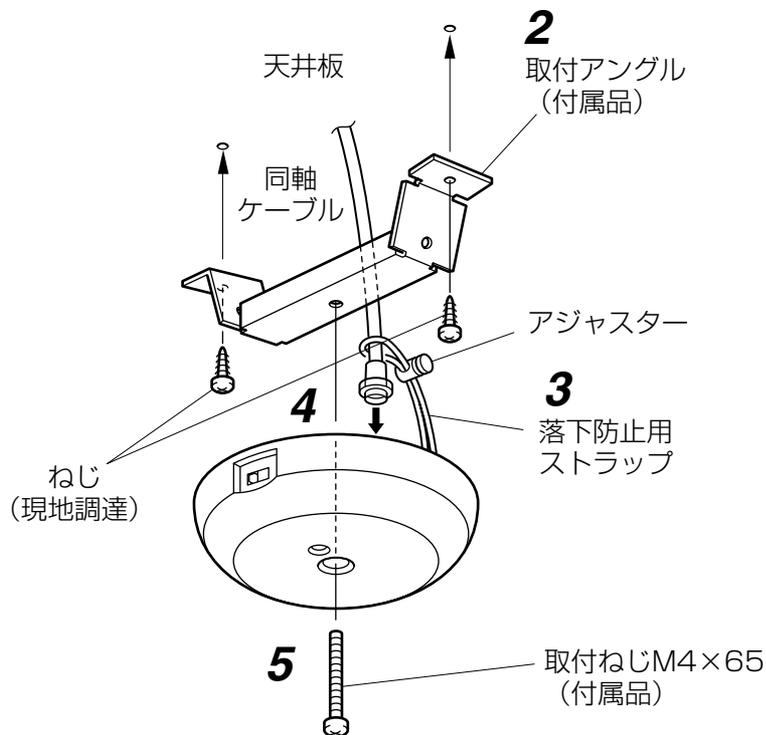
- トルクドライバーなどを使用し、指定されたトルクで確実に締め付けてください。



各部、溝に沿って曲げる

### 6 取り付け後、緩みがないか確認する

目視にてガタツキがなく、しっかりと締められていることを確認します。



- 落下防止のため、必ず落下防止ストラップに同軸ケーブルを通し、アジャスターで締め付けてください。締め付けなかった場合、落下防止ストラップが同軸ケーブルから抜け、本機の落下につながります。

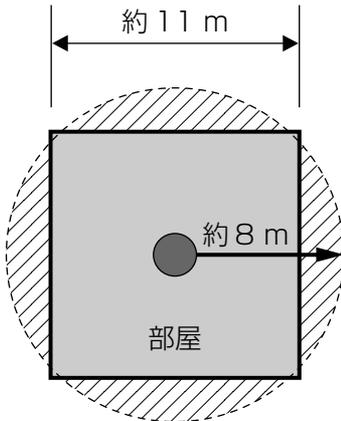


- 取付アングルを天井板へ取り付けるためのねじ（現地調達）は付属されていません。天井板の材質や構造、総質量を考慮してご用意ください。

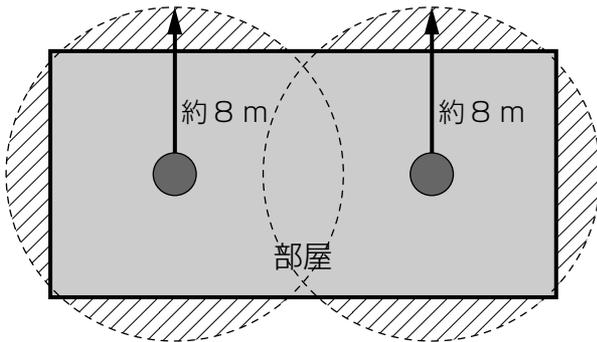
## 受信範囲と増設

- 本機1台の実用上受光範囲は約半径8 mです。
- より大きな部屋をカバーする場合には、受光センサー用混合器（WX-LC10）を使用し本機を増設してください。  
受光センサー用混合器を使用した場合、4台まで増設できます。

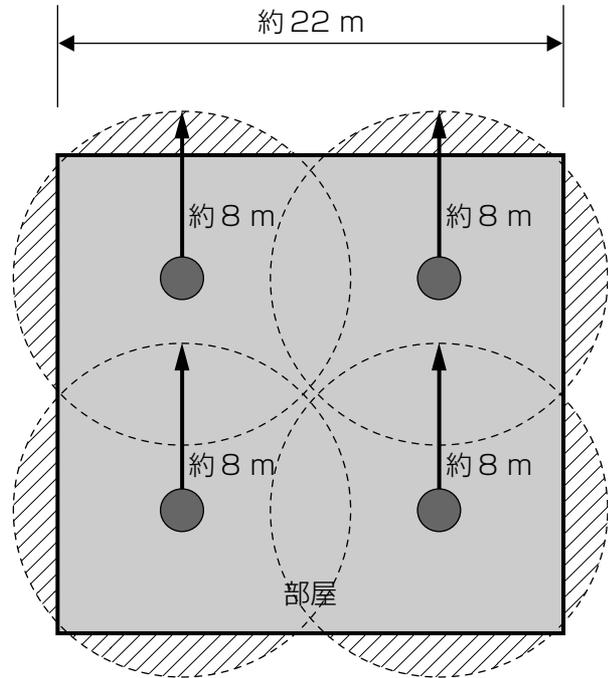
### ■ 1ch/2ch（3ch/4ch）を受信する場合



受光センサー：1台の場合



受光センサー：2台の場合



受光センサー：4台の場合



- 「1/2：1ch/2ch」と「3/4：3ch/4ch」を同じエリアで混在させる場合、受光センサーの位置をそれぞれ30 cm以上離してください。

# 接続のしかた

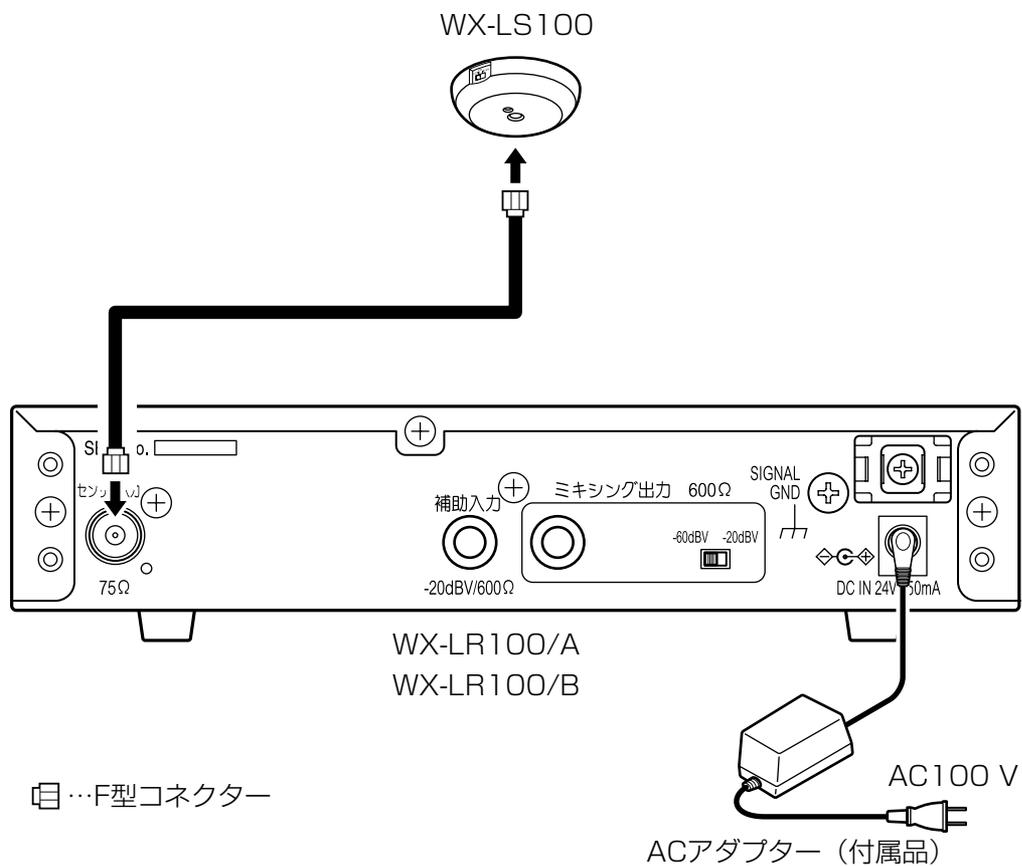
## 1台接続する場合

**警告** 取り付けは、必ず赤外線ワイヤレス受信機の電源を切ってから行う  
感電の原因になります。

本機センサー出力端子と赤外線ワイヤレス受信機のセンサー入力端子を下図のように同軸ケーブルで接続します。



- 赤外線ワイヤレス受信機 (WX-LR100/A、WX-LR100/B) の取扱説明書もあわせてよくお読みください。



## 複数台接続する場合



**警告**

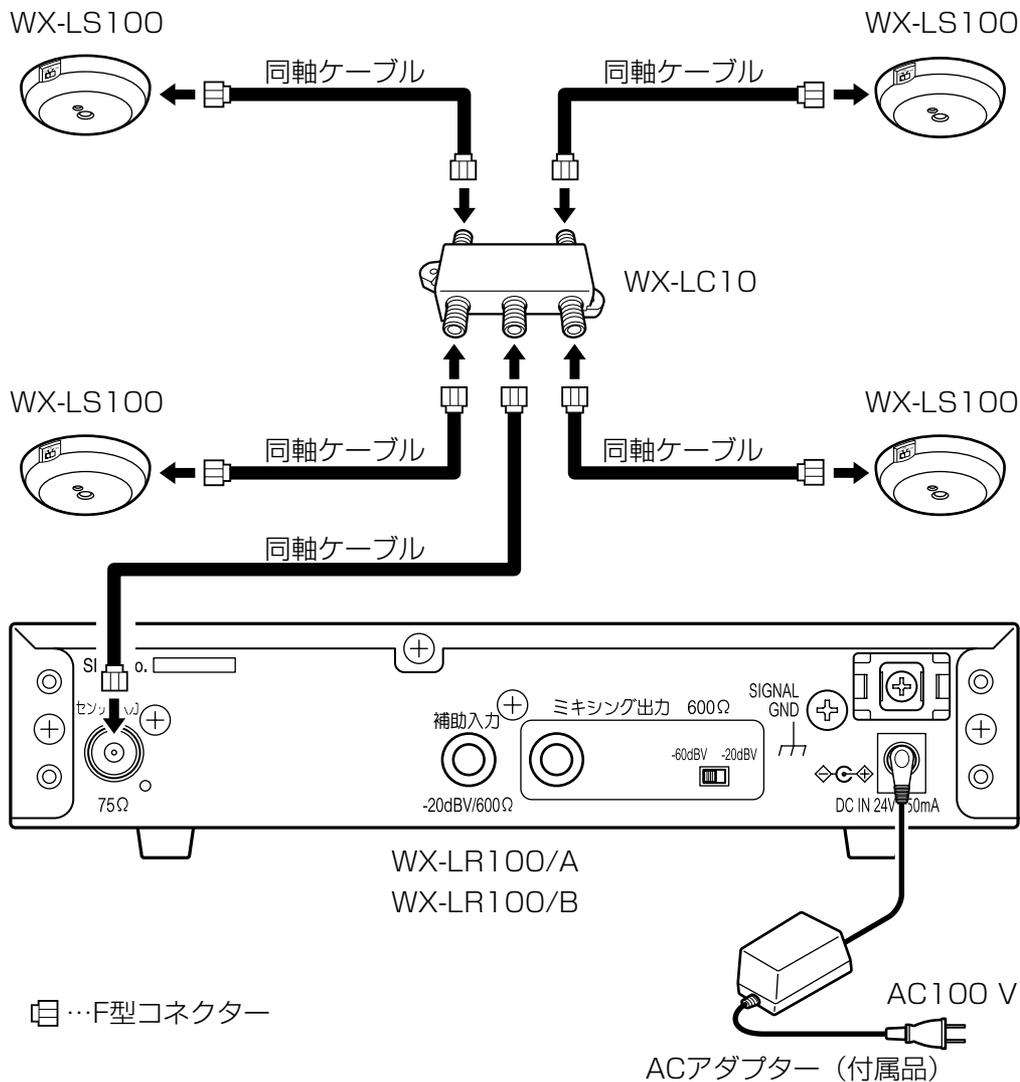
取り付けは、必ず赤外線ワイヤレス受信機の電源を切ってから行う  
感電の原因になります。

受光センサー用混合器を使用すると、本機を4台まで増設でき、広いエリアを受信できます。

本機センサー出力端子と赤外線ワイヤレス受信機のセンサー入力端子を下図のように同軸ケーブルで接続します。



- 赤外線ワイヤレス受信機 (WX-LR100/A、WX-LR100/B)、受光センサー用混合器 (WX-LC10) の取扱説明書もあわせてよくお読みください。



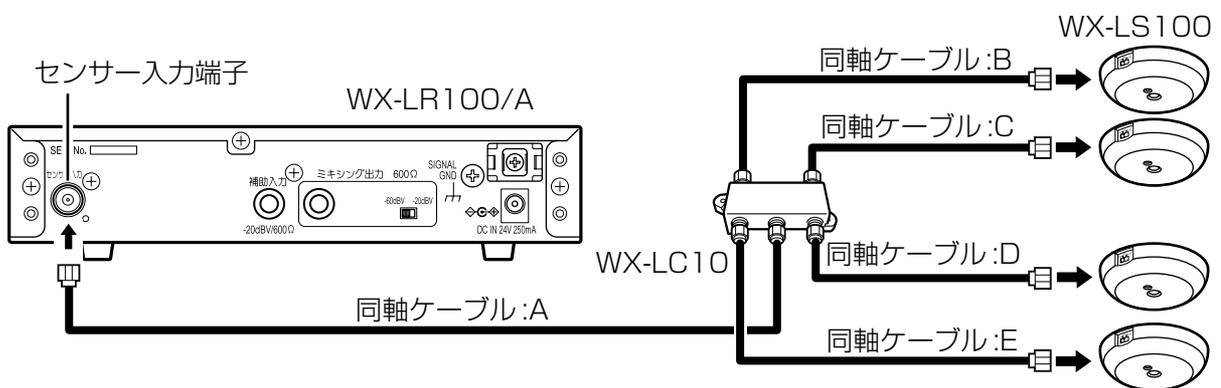
## 同軸ケーブルについて

赤外線ワイヤレス受信機と本機間の同軸ケーブル長、および同軸ケーブルの種類は以下のものをお使いください。

- 同軸ケーブル長 : 100 m以内
- 同軸ケーブルの種類 : 5C-2V

赤外線ワイヤレス受信機から受光センサー用混合器までの「同軸ケーブル長：A」と、受光センサー用混合器から本機までの各同軸ケーブル：B～Eの中で最も長い「同軸ケーブル」の合計が100 m以内の範囲です。

-  ● 本機から受光センサー用混合器までの同軸ケーブル：B～Eのケーブルの長さの差は、12 m以内におさまるようになしてください。



**【良い例1】** 同軸ケーブル長が、A=40 m、B=8 m、C=4 m、D=6 m、E=10 mの場合  
 同軸ケーブルB～E : 12 m以内のため長さの範囲に問題はありません。  
 ケーブル長 : 「A : 40 m + E : 10 m = 50 m」となり問題はありません。

**【良い例2】** 同軸ケーブル長が、A=60 m、B=30 m、C=35 m、D=25 m、E=33 mの場合  
 同軸ケーブルB～E : (最長 : 35 m) - (最短 : 25 m) = 10 m  
 12 m以内のため長さの範囲に問題ありません。  
 ケーブル長 : 「A : 60 m + C : 35 m = 95 m」で100 m以内のため問題ありません。

**【悪い例】** 同軸ケーブル長が、A=50 m、B=40 m、C=45 m、D=50 m、E=55 mの場合  
 同軸ケーブルB～E : (最長 : 55 m) - (最短 : 40 m) = 15 m  
 12 m以上あり、長さの範囲に問題があります。  
 ケーブル長 : 「A : 50 m + E : 55 m = 105 m」で100 m以上のためケーブル長にも問題があります。

-  ● F型コネクタを同軸ケーブルに取り付ける場合は、仕様が合致していることを確認してください。また、F型コネクタの取り付け方法にしたがって確実に取り付けてください。  
 ● F型コネクタは、端子への取り付けを確実にするため、ねじ式のものをお使いください。

# チャンネル設定について

使用する機器により、受光センサーの設定するチャンネルが異なりますのでご注意ください。

- WX-LR100/Aの場合  
受信チャンネル 1ch : 2.30 MHz  
2ch : 2.80 MHz
- WX-LR100/Bの場合  
受信チャンネル 3ch : 3.20 MHz  
4ch : 3.80 MHz

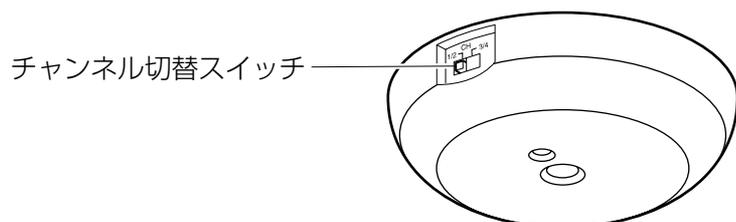
## ■本機の受信チャンネルを設定する

チャンネル設定スイッチのポジションを切り替えます。

チャンネル設定スイッチのポジションとチャンネルは以下のとおりです。

[1/2] ポジション : 1ch (2.30 MHz) / 2ch (2.80 MHz)

[3/4] ポジション : 3ch (3.20 MHz) / 4ch (3.80 MHz)



WX-LS100

# 故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

必要なとき

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
受信できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 赤外線ワイヤレス受信機の電源は入っていますか？</li> <li>➔ 赤外線ワイヤレス受信機の電源を「入」にしてください。</li> </ul>	WX-LR100の取扱説明書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マイクロホンの電源（電池）は入っていますか？</li> <li>➔ マイクロホンの電源（電池）を入れて送信状態にしてください。</li> </ul>	WX-LT100、WX-LT300の取扱説明書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マイクロホンが送信するチャンネルと本機の受信するチャンネルの設定は合っていますか？</li> <li>➔ マイクロホンのチャンネル設定を本機の受信チャンネルと同じにしてください。</li> </ul>	17
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本機が受信するチャンネルと赤外線ワイヤレス受信機のチャンネル設定は合っていますか？</li> <li>➔ 赤外線ワイヤレス受信機のチャンネル設定を本機の受信チャンネルと同じにしてください。</li> </ul>	17
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● F型コネクタ処理部の接続不良、同軸ケーブルの断線はありませんか？</li> <li>➔ F型コネクタ、同軸ケーブルを確認してください。</li> </ul>	16
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本機または赤外線ワイヤレス受信機間のF型コネクタは、正しく接続されていますか？</li> <li>➔ 接続を確認してください。</li> </ul>	14、15
時々受信できなくなる、ノイズが発生する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近くにプラズマディスプレイやノイズ源となる機器がありませんか？</li> <li>➔ 本システムおよび同軸ケーブルからノイズ源を遠ざけてください。</li> </ul>	8

症 状	原因・対策	参照ページ
時々受信できなくなる、ノイズが発生する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● F型コネクタ処理部の接続不良、同軸ケーブルの断線はありませんか？</li> <li>➔ F型コネクタ、同軸ケーブルを確認してください。</li> </ul>	16
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本機または赤外線ワイヤレス受信機間のF型コネクタは、正しく接続されていますか？</li> <li>➔ 接続を確認してください。</li> </ul>	14、15
混信する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マイクロホンを受光センサーに近づけて使用していませんか？</li> <li>➔ 距離を離して使用してください。</li> </ul>	WX-LT100、WX-LT300の取扱説明書
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近くに高周波を使う機器や雑音源があると、混信する場合があります。</li> <li>➔ マイクロホンと本機の距離を短くして使用してください。</li> </ul>	8
音が途切れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 赤外線ワイヤレス受信機が受信するチャンネルと本機のチャンネル設定は合っていますか？</li> <li>➔ 受光センサーのチャンネル設定を赤外線ワイヤレス受信機の受信チャンネルと同じにしてください。</li> </ul>	17

必要なとき

## 仕様

電 源	DC22 V (赤外線ワイヤレス受信機 (WX-LR100/AまたはWX-LR100/Bから供給))
消費電流	20 mA
赤外線波長	850 nm
センサー出力	75 Ω F型コネクタ
受信チャンネル (副搬送周波数)	設定スイッチ「1/2」 1ch : 2.30 MHz、2ch : 2.80 MHz 設定スイッチ「3/4」 3ch : 3.20 MHz、4ch : 3.80 MHz
使用温度範囲	-10℃~+50℃
寸 法	最大径 φ113.5 mm×34.5 mm (H) (F型コネクタ突起含まず)
質 量	約0.2 kg
仕 上 げ	赤外透過型アクリル樹脂 (黒色)

# 保証とアフターサービス よくお読みください

修理・お取り扱い・お手入れ  
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ  
お申し付けください

## ■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

## ■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、この受光センサーの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 修理を依頼されるとき

18～19ページにしたがってご確認のあと、なお異常のあるときは、赤外線ワイヤレス受信機のACアダプターを電源コンセントから抜き、お買い上げの販売店へご連絡ください。

### ● 保証期間中は

保証書の規定にしたがって、出張修理をさせていただきます。

### ● 保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。下記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

### ● 修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

**技術料** は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

**部品代** は、修理に使用した部品および補助材料代です。

**出張料** は、お客さまのご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

### ご連絡いただきたい内容

製品名	受光センサー
品番	WX-LS100
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WX-LS100
	販売店名	電話 ( )	—			

## 松下電器産業株式会社 ブロードメディア本部

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号

電話 フリーダイヤル 0120-878-410

3TR004797BAA

ASe0107-1037

Printed in China